

# 伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第二十主日礼拝

## 2020年10月18日

### 前奏：

#### 招きのことば：詩編 27:7-10

主よ、呼び求めるわたしの声を聞き | 憐れんで、わたしに答えてください。

心よ、主はお前に言われる | 「わたしの顔を尋ね求めよ」と。

主よ、わたしは御顔を尋ね求めます。| 御顔を隠すことなく、怒ることなく

あなたの僕を退けなさい。| あなたはわたしの助け。

救いの神よ、わたしを離れないでください | 見捨てないでください。

父母はわたしを見捨てようとも | 主は必ず、わたしを引き寄せてくださいます。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば：

**会衆：**私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。

(短い黙祷を持ちましょう)

**牧師：**何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

#### 使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。アーメン。

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは私たちひとりひとりを名前をよんであなたの恵みの御座に呼び出してください、今朝もともに罪の赦しと新しいのちの恵みにあずかる礼拝へと導いてくださり心から感謝をいたします。私たちはひとりひとり、家庭で、社会で、そして教会で、それぞれに使命をいただいています。過ぐる一週間も、私たちとともにいて、日々の必要を満たし、あなたの御名のみさかえのために歩ませてくださいました。私たちは苦しいことも、つらいことも、悲しいことも、どうにもならないことも経験します。でも試練の中で神様に全幅の信頼をしいことを覚えさせられます。また、苦難の中でもこれまで見えていなかった神様の愛と導きに気づかせていただき、慰められ、励まされます。

主よ、今週も私たちを導いてください。私たちの教会を互いに愛し合い、高めあっていく交わりとして続いてお育てください。新型コロナ・ウィルスの感染は縮小の気配がありません。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして澁刺とした日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

## 使徒書朗読：I テサロニケ 1:1-10

パウロ、シルワノ、テモテから、父である神と主イエス・キリストとに結ばれているテサロニケの教会へ。恵みと平和が、あなたがたにあるように。

わたしたちは、祈りの度に、あなたがたのことを思い起こして、あなたがた一同のことをいつも神に感謝しています。あなたがたが信仰によって働き、愛のために労苦し、また、わたしたちの主イエス・キリストに対する、希望を持って忍耐していることを、わたしたちは絶えず父である神の御前で心に留めているのです。

神に愛されている兄弟たち、あなたがたが神から選ばれたことを、わたしたちは知っています。わたしたちの福音があなたがたに伝えられたのは、ただ言葉だけによらず、力と、聖霊と、強い確信とによったからです。わたしたちがあなたがたのところで、どのようにあなたがたのために働いたかは、御承知のとおりです。そして、あなたがたはひどい苦しみの中で、聖霊による喜びをもって御言葉を受け入れ、わたしたちに倣う者、そして主に倣う者となり、マケドニア州とアカイア州にいるすべての信者の模範となるに至ったのです。

主の言葉があなたがたのところから出て、マケドニア州やアカイア州に響き渡ったばかりでなく、神に対するあなたがたの信仰が至るところで伝えられているので、何も付け加えて言う必要はないほどです。彼ら自身がわたしたちについて言い広めているからです。

すなわち、わたしたちがあなたがたのところでどのように迎えられたか、また、あなたがたがどのように偶像から離れて神に立ち帰り、生けるまことの神に仕えるようになったか、更にま

た、どのように御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを。この御子こそ、神が死者の中から復活させた方で、来るべき怒りからわたしたちを救ってくださるイエスです。

### **福音書朗読：マタイによる福音書 22 章 15-22 節**

それから、ファリサイ派の人々は出て行って、どのようにしてイエスの言葉じりをとらえて、罠にかけようかと相談した。そして、その弟子たちをヘロデ派の人々と一緒にイエスのところに遣わして尋ねさせた。「先生、わたしたちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれをもはばからない方であることを知っています。人々を分け隔てなさらないからです。ところで、どうお思いでしょうか、お教えてください。皇帝に税金を納めるのは、律法に適合しているでしょうか、適っていないでしょうか。」

イエスは彼らの悪意に気づいて言われた。「偽善者たち、なぜ、わたしを試そうとするのか。税金に納めるお金を見せなさい。」彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、イエスは、「これは、だれの肖像と銘か」と言われた。彼らは、「皇帝のものです」と言った。すると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」彼らはこれを聞いて驚き、イエスをその場に残して立ち去った。

### **讃美歌 280 番**

- 1 わが身ののぞみは ただ主にかかれり、主イエスの外には よるべきかたなし。  
 <繰り返し>わがきみイエスこそ、すくい岩なれ、すくい岩なれ。
- 2 風いとはげしく なみ立つ闇夜も、みもとにいかりを おろして安らわん。 <繰り返し>
- 3 この世の望みの 消えゆくときにも、こころは動かじ、みちかいたのめば。 <繰り返し>
- 4 見ぬ世に移りて まみゆるそのとき、主の義をまといて み前に立たまし。 <繰り返し>  
 アーメン

### **説教：「神のものは神にかえしなさい」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様はどんなクリスチャン生活を送るよう願っておられるのでしょうか。私たちはそれぞれ、家の中の生活があり、家の外での生活があります。また教会での暮らしがありますね。教会で聖書のみ言葉の約束を聞いて、神様を信じて歩む生活は、そうではない方々と違いがあるのでしょうか。

イエス様はご生涯の最後の1週間をエルサレムで過ごされました。日々、神殿の境内で人々にお話になっていました。民の指導者層の人々は、自分を神からの救い主と言って民の信頼を得

ているイエス様の存在を認めることができず、邪魔に思い、何とか取り除こうと相談しました。その中にパリサイ派とよばれる人々がいました。彼らは聖書の律法をしっかり守ることを民に教える人々でした。当時イスラエルはローマ帝国の支配下にあり、ローマの属国となっていました。パリサイ派の人々はローマの力をうまく使って人々を治めていたヘロデ党と呼ばれる人々と手を結び、イエス様をとらえる口実を得ようとたくらんで、イエス様を困らせるある質問をしました。

それは聖書の律法によるとローマ帝国に税金を支払うべきかどうか、という質問でした。これは単純に見えて手の込んだ悪質な質問です。イエス様がそうしてはならない、と答えたら、ローマへの反逆罪で訴えることができ、そうしなさい、と答えたら、神の国を語りながら結局政治的権力には勝てず、簡単に屈するのか、と弱さを指摘することができます。この質問は、どちらに転んでも民の信頼を奪いイエス様を訴えることができるという、悪意に満ちた罠だったのです。

当時のローマという国は強い国でした。神様を信じ敬うことをせず、敵対する国々に打ち勝って圧倒的な力を見せつけて世界を支配しました。弱い国を侵略し、強い国と戦って、ローマ帝国を広げてきました。そして、ローマの皇帝を神として拝むようにと人々に命じ、そうしない人を迫害しました。こんな国にイスラエルは支配されていたのです。

これに対してイスラエルの指導者たちの対応は3つの立場に分かれました。ヘロデ党やサドカイ派といわれる人々は、長いものに巻かれて、ローマの権力を自分の味方につけてイスラエルの人々を支配しようとしていました。反対に、熱心党と呼ばれる人々は、神様を信じ敬う人々が、自分を神とするようなローマ皇帝をのさばらせておくことは、神様の力を信じない不信仰なことではないかと考えました。ローマ皇帝がクリスチャンたちを迫害することになるとなおさらです。イスラエルを助け、優遇してくれる、もっと敬虔な人たちが政治の権威をもつように願って、イスラエルの政治的な救い主を待ち望み、ローマの国に反抗しました。パリサイ派の人々は、強い国が弱い国を支配するのは仕方ないことだから、私たちは生活の中で個人的に神様のみ言葉を守っていこう、とあきらめていました。服従、抵抗、あきらめの3つの態度です。

イエス様はこれらのどれでもない道をしめしました。イエス様はどうお答えになったのでしょうか。まず税金として支払うお金を見せるように言いました。質問した人々がローマの貨幣である銀貨を見せると、そこには皇帝カイザルの顔が刻印されていました。それでイエス様は「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」とお答えになりました。罠だった質問を発した時点で既に勝ち誇った気持ちだった人々は、この知恵に満ちたこたえにとても驚いて、イエス様を残して帰ってしまいました。

この質問は、クリスチャンとして生活を送る私たちが、この世にあってどう生きるのかをイエス様に問うている質問でもあります。今の世の中でも、この世で力をもっている人々は必ずしも神様を信じ敬う人々ではありません。また、その立場にのし上がるために手を汚した人もいます。クリスチャンは世の法律で認めている政治の力や、警察の力や、学校からの指令や町内会や親など、私たちが従うべきだとされている権威に従うのでしょうか。それとも私は神様の子どもとされているので神様の権威にだけ従うのであって、人の立てた権威や法律には従わなくてよいのでしょうか。あるいは、仕方がないこと、として諦めて生きるのでしょうか。

イエス様は、「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」とお答えになりました。ここで注意していただきたいのは、イエス様はこの世の支配者である皇帝には歯向かって勝てないと言いなさい、と心の中だけで神様に従いなさい、と言われたのではないことです。政教分離の原則を言われたものではありません。むしろ、パリサイ派の人々がこの世での生活を考えるのに税金のことが質問していないことを指摘したのです。それで、皇帝のものは皇帝に返しなさい、とだけお答えになったのではなく、それに続いてパリサイ派の人々が考えていなかった、神のものは神に返しなさい、とお答えになりました。

この世で生きる毎日の生活を考えてみましょう。多くの人々は神様を信じ敬いません。いろいろな理由をつけて、自分の利益を求めて、自分の欲望を満たすことを優先します。神様はその罪びとである私たち人類が、ひとりひとりが尊重される自由で平和な日々を送ることができるために、社会に秩序を与え、人々を治める権威を置きました。神様を信じ敬うことのない人類が、それでも平和と繁栄を保つことができるように、必ずしも神様を信じ敬う人々が権威を持つとは限らないのに、その権威を認め、秩序をもって人々を治めることをお許しになっています。ローマ人への手紙 13 章には、権威は神によって立てられたものなので上に立つ権威に従いなさい、権威者はあなたに善を行わせるために神に仕える者なのです、と記されています。

ローマ帝国の支配下に生きる人々は、税金を払うのに皇帝の刻印のはいった通貨を使っていました。皇帝の権威によって、その通貨は信用されて人々の間で買い物や商売、福祉や教育が成り立っていたのです。ローマの為政者たちは神様を信じ敬わない人々であっても、神様が願っている秩序を保ち、平和と繁栄を実現するために神様が用いています。そして現にイスラエルの人々もその恩恵にあずかり、その通貨を用いて日々の暮らしを営んでいました。

イエス様は、皇帝のものは皇帝に返しなさい、神のものは神に返しなさい、と言われました。私たちは、皆税金を払い、ある人は公務員として働き、きめられた社会的ルールをすすんで尊重して、秩序ある社会づくりに市民として力を尽くしましょう。ローマ帝国の転覆やクリスチャンが支配する国をつくることを考えません。また、権威を担っている人が権威を世の秩序と平和をつくるために用いないで人々に罪をおかさせるために用いるならば、その矛盾を見抜い

て指摘し、抵抗します。クリスチャンではない人々が社会的権威をもっていますが、神様が世の秩序と平和と繁栄のために設定された権威をもって神様に仕える人々なので、クリスチャンである私たちも、彼らが働きやすいように尊重し尊敬してよい市民として、よい社会人として、よい生徒として、よい子どもとして正しく歩みましょう。

このように皇帝のものは皇帝に返して生きていきます。けれどもイエス様はそれと共に神のものは神に返しなさい、と言われましたね。神様は罪びとである人間が秩序を保って共に人間らしく暮らせるようにと世の権威をおつくりになりましたが、それは罪びとを救う働きではありません。人に親切にして、社会で貢献しても、それで神様の前で罪が赦されたり、新しい神の子としてのいのちが与えられるのではありません。神様を信じ敬わない罪深い人であふれている人の世が人間らしい平和と繁栄を保てるように秩序と権威を設けられた神様は、また、人の罪を赦すために歴史上最大の贈り物を私たちにお与えくださいました。それがイエス様です。イエス様はこのあと、エルサレムで十字架にかけられて死んでくださいました。神様の前で私たちが償うべき罪の刑罰を、私たちを愛するゆえに私たちの代わりになって担ってくださいました。またよみがえってくださいました。神様に愛されて澆刺と生きる命を私たちに与えるためです。イエス様は洗礼によってこの罪の赦しと新しい命を私たちひとりひとりに与えてくださいます。教会はこの福音を伝え、この福音を与えるところです。

私たちは家族の一員としての使命があります。家族、親族の中での立場は複雑です。家事を分担するだけではなく、秩序のもとに家庭をとともに形作る使命が与えられています。日々の活動はいかがでしょうか。家を守りながら社会で様々な働きを分担しています。職場や学校には難しい人もいます。でも私たちは自分の生計を立てるためだけに働いているわけではなく、仕事や学びを通して人を支え、社会を支えています。教会生活にも秩序や役割があります。牧師と信徒という役割があり、長老や執事の働きのほかに委員会や世代別の交わりなどがあります。交わりや奉仕や献金は、神様からお預かりしているたくさんの贈り物をやりくりして、み言葉がいつも語られるような教会を支えています。人々は家庭ではぐくまれ、教育を受け、社会で貢献し、互いに支え合って生きていきます。

罪びとであふれている世にあって、私たちは神様にイエス様によって罪を赦されて、神の子とされます。神様の保ってくださいている世にあって、私たちは今週も新しいいのちを生きていきます。あなたにも罪の赦しと新しいいのちが与えられています。人々の中で秩序を守るだけではなく、人々が生き生きすることができるよう、イエス様から注がれた愛をもって、力を尽くして歩んでいきます。神様のものを神様に返して、歩んでいきましょう。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン。

**讚美歌 234A 番 献金 献金感謝の祈り**

1. 昔主イエスの 播きたまいし いとも小さき 生命の種、  
芽生え育ちて 地の果てまで、その枝を張る 樹とはなりぬ。
2. 歴史のながれ 旧きものを 返らぬ過去へ 押しやる間に、  
主イエスの建てし 愛の国は 民より民へ ひろがりゆく。
3. 時代の風は 吹きたけりて、思想の波は あいうてども、  
すべてのものを 超えてすすむ 主イエスの国は 永久(とわ)に栄えん。
4. 父なる神よ、み名によりて 世界の民を ひとつとなし、  
地をばあまねくみ国とする みちかいをとく果たしたまえ。 **アーメン**

**主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 **アーメン**

**頌栄：讚美歌 541 番**

父、御子、御霊のおお御神に、ときわに絶えせず みさかえあれ。みさかえあれ。 **アーメン**

**祝福の言葉**

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

**後奏**